



つなぐちゃんベクトル

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会社内誌 臨時増刊 46号 2010.4.13 発行 社会政策研究所

=====

今回は追加されず 「碍」

「碍」の常用漢字見送り 「玻」「鷹」も追加せず

常用漢字の改定を議論している文化審議会の漢字小委員会は13日、191字を増やしたこれまでの試案に追加する漢字はないことを確認した。「障害」ではなく「障碍」と書けるように、障害者団体などが「碍」の追加を求めていたが、見送った。

ほかに要望の多かった「玻」「鷹」も追加対象にはならなかった。

「碍」について、戦前は障害も障碍も「妨げ」の意味で使われていた。戦後、「碍」が当用漢字にも常用漢字にもならなかったため、障害という表記が定着。これに対し、「害」は否定的なイメージが強いとして「碍」の追加を求める声が高まっていた。

昨年末に設立された政府の「障がい者制度改革推進本部」も「害」の使用は避け、鳩山由紀夫首相は「平仮名の『がい』表記に意味がある」と語っていた。

これまでの試案では、現行表(1945字)より191字増の2136字。1次試案で「岡」「俺」など191字を追加する一方、「刃」など5字を削除した。さらに昨年11月の2次試案で「賂」など9字を追加し、追加候補から「聘」など4字を削除した。

2010/04/13【共同通信】

下記のように、先週の朝日新聞の記事では「障碍者」という表記が実現するかもしれないということであったが、今回の文化審議会監事小委員会の結論は、上記のように追加せずとなった。仮に追加が決定していれば、表記方法の関係で法律改正が必要になり、障害者に関する論議が活発になったのかもしれないが、一般的に避けられたと思われる。実質的な制度改革の論議を現行の「障がい者制度改革推進会議」やその部会である「総合福祉部会」にゆだねることとなる。【kobi】

「障害者」か「障碍者」か 「碍(がい)」を常用漢字に追加求め意見

朝日新聞 2010年4月5日

障害者ではなく障碍(しょうがい)者と書けるように、「碍」を常用漢字にしてほしいという声が高まっている。「改定常用漢字表」に関する試案をまとめた文化審議会国語分科会の漢字小委員会は、6月予定の答申に向けて詰めの作業に入ったが、追加字種の中で碍の扱いは焦点の一つとなりそうだ。

戦前は障害や障碍、障碍(しょうがい)(礙は碍の本字)が妨げの意味で使われた。戦後、碍は当用漢字にも常用漢字にもならず、障害が定着した。ただ、害は負のイメージが強く、最近では「障がい」を使う自治体が増えてきた。政府の「障がい者制度改革推進本部」も表記を見直し始めている。ちなみに日本の障害者に相当する表記は中国が残疾人、台湾が障礙者、韓国が障碍人などだ。

試案では、使用頻度が少ないといった理由から碍の追加は見送られた。しかし文化庁が昨年未、試案への意見を募ると、碍の追加希望は86件に達し、障害者自身からもこんな声が寄せられた。「読み書きする時に、害の字のもつマイナスイメージにいつも不快感がつきまとう」「害という漢字が嫌なのです。私たちは確かに妨げになるものをかかえているかもしれませんが、世の害ではありません」

自治体にも動きがある。大阪府吹田市は昨年未、障害者に替わる呼称を市民らから募集した。障害は人ではなく社会にあり、障害という表現を人に使うのはふさわしくないとの判断からだ。障碍など85件の意見が寄せられ、検討委員会で話し合う予定だった。しかし同市議会が3月末、丁寧な意見集約が必要などとして作業の一時中止を求める決議を行うなど、慎重な判断を求める声も一方にはある。

また佐賀県の古川康知事は2月、文化審議会に碍の追加を要望し、改革推進本部にも障害者に替わる表記として障碍者を候補にと求めた。「障がいというまぜ書きは漢字文化になじまない。害するという意味のない碍を採用すべきです」と古川さん。私的な文章では障碍と表記している。

漢字小委員会ではこれまで意見が分かれている。賛成派は「今の時代を反映した漢字を採用すべきだ。社会的な偏見を引き起こす害を使わずに済むよう碍を加えたい」と主張する。一方、「これは漢字の問題ではなく障害に対する社会の見方の問題であり、改革推進本部の議論を見守るべきだ」とする委員もいる。

いずれの結論を採るにしても、文化審議会はこの問題に対する見識を示すべきだ。害という漢字が嫌なのです、と訴える人たちのためにも。(白石明彦)

たまには太陽の子・手をつなく、たまにはつなくちゃんベクトル、たまにブログたまにはチェック



大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなく育成会 社会政策研究所発行